

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム後楽庵
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	宮城県遠田郡涌谷町
記入者名 (管理者)	平 ゆう子
記入日	平成 19年 6月 5日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆったり のんびり家庭的な雰囲気でのその人の暮らしを支援する	○ 現状に合わせて理念の検討をしていく
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議で理念について話し合い、スタッフ全員でそれに向かい努力して取り組んでいる	○ 定期的に理念をスタッフ全員で話し合っていきたい
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の会(季節の行事)などで家族との会話を通して	○ 今後も継続していきたい
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩やデイサービスの移動時、町内清掃などで係わり合いを持っている	○ 地域の方々も高齢化しており、後楽庵が企画した行事などへの参加を呼びかけたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・保育園・小学校との交流・文化祭への参加 ・畑作りのボランティア ・地域交流センターの活用(家族会などで使用)	○ 利用者の状況に合わせて新たな行事等、地域参加を拡充したい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施していない	○	事業所として何が出来るのかを見極め、地域貢献をしていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に一度、自己評価を行うことにより質の確保を見直すのに良い機会になっている	○	評価しただけで終わらず、常に質の高いケアが実施されているか、事業所独自の振り返りを行いたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をまだ開催できていない	○	運営推進会議開催に向けて働きかけていきたい(町の福祉課の方に相談しました)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度より短期入所の指定を受け、すでに町から依頼を受けた方が短期入所している	○	空き室がある場合、町からの依頼があった場合は積極的に受け入れをしていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は学ぶ機会や関係者との話し合いはあるが、職員はない	○	職員にも学ぶ機会を作りたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で虐待防止を話し合い、虐待はない	○	今後も取り組んでいきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際は、本人・管理者・職員・家族で話し合いを持ち、お互いの理解・納得を図っている。	○	今後も納得を得られる説明を行っていきたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者窓口を設けている	○	今後も継続していきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話など似て個々に合わせた報告は行っているが、定期的な実施には至っていない。(しかし、ほとんどの家族は月に一回以上の面会はある)	○	定期的に、ゆっくり家族と話し合いが出来る機会を設けたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員苦情相談窓口あり(NPO介護ネット)	○	苦情が発生した時は誠意を持って解決にあたっているが、今後もこの姿勢を継続する
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、職員側から提示あり。運営に生かしている	○	提案の場を設けると忌憚りの無い意見が出にくい為、随時出される意見を今後も無駄にしないようにしていきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟に対応している	○	継続して行きたい
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はほぼ無い。離職も最小限に抑えられている	○	新しいスタッフを配置する場合は、3人体制をとり、研修期間を設けている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部評価や会議などの参加はしている	○	内部研修への取り組み
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の同業者との交流する機会を持っている	○	職員も参加に取り組みたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は話を聞くようにしている	○	職場を離れての親睦会などを計画したい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人面談などを行い、1年の目標を提示してもらい個々の意識を把握している	○	個人面談を充実させて、目標の達成度を把握しアドバイスしていきたい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談・申請があった場合は本人、家族に面談し詳しい状況を聞くように勤めている	○	本人の状況に応じた相談・聞き取りなどを行っていく
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所初期は本人の様子を頻繁にお知らせするようにしている	○	これまでの取り組みを継続しながらより良いものを追及していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネとの連携を密にし、見極めをしている	○	地域の居宅介護支援事業所・地域包括支援センターとのさらなる連携をはかっていきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	スタッフ側のペースにして混乱してしまうことのない様にサービス利用前とあまり変わらない生活を継続できるよう、家族などに伺いながら支援している	○	同法人のデイサービス利用からの入所が多く、入所前の馴染みの関係が出来ている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは常に「利用者は人生の先輩である」という思いを持ち、それぞれの特技や好きなこと、生活背景を考慮しながら互いに支えあえるよう支援している	○	これまでの取り組みをこれからも継続していきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の会を実施するなど、本人の状態を理解していただけるように家族に伝え、「預けてしまった」という思いをいただいてしまわないようにしている	○	定期的な家族の会の実施
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が負担感を感じることはないように、家族にしか出来ないこと、家族だからこそできることを伝え、協力を得るなどし、関係を築いていけるように支援している		家族と共に介護をしていく事を念頭に取り組んでいく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週末や、家族が帰郷した時は一時帰宅なども実施している		入所後も、「本人らしく生活する」ということはどのようなことかを考えて支援している
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、スタッフの介入が必要な時などには、なにげなく中に入り、関係がうまくいくように支援している		本人の居場所を提供していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了した家族などから畑や草刈のボランティアなどを行ってくださるという申し出などがあつた。また、元利用者が今、どのような状態にあるのか、家族から連絡して下さることもある	○	行事などの際には連絡して行きたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向などを日々の会話の中から引き出し把握する	○	スタッフに遠慮し、希望や意向が伝えられなくなってしまうまいよう、信頼関係をより強いものにしていきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より生活歴を伺い、また、自宅(自室)に訪問するなどしてこれまでの暮らしを把握している	○	日々の生活や、何気ない会話の中で知り得た情報もスタッフ全員が共有できるようにしていきたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日、その時でも心身の状態やできることは違うと考えている。現状をしっかりと見極めるように勤めている	○	同上
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議で話し合われた内容を元に介護計画を作成している	○	作成した介護計画をスタッフに浸透させる。さらに、モニタリングの集約が再目標につなげられるようにしていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた時点で家族への連絡を速やかに行い、スタッフ会議を招集し検討をしている。	○	変化を見逃すことなく、常に利用者の状況に敏感でいられるようにしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの内容等は記録に残している	○	記録が引継ぎだけの物でなく、介護計画の見直しにもっと活かせるようにしていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院・外出・外泊など、家族と協力し、柔軟に支援している。また、空室がある場合に限り短期入所も行っている	○	後楽庵の活動を向上させる為に、入所という型意外で高齢者の受け入れを考えて生きたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	畑死後や草とりなどのボランティアやサークル団体の協力を得ている	○	ボランティアなどお願いするばかりでなく、後楽庵が地域資源として発信できる事はないかを探していきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性が生じた場合は行っている。(リハビリが必要になった方をリハビリが出来る他の事業所をお願いした)	○	必要に応じ、他職種との連携も取れるようにしていきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	常に、涌谷超地域包括支援班との協働で行っている	○	地域密着型の利点をいかし、緊急時や困難事例にも対応できるようにしていきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に同行や、書面での伝達などを行っている	○	本人の状況に応じて、往診などの協力を得ていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医を受診している。必要に応じて家族・利用者・職員が相談している	○	今後も相談して、より良い診断や治療が受けられるようにしていきたい
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	一日に2回のバイタルチェックの実施のほか、心身の観察などを行い、変化や異常があれば看護師に報告し指示をあをいっている	○	定期的に町の保険師の指導を受けるようにしていきたい
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院や退院時にはサマリーを提供しあい、また、退院に当たっては医療機関へ訪問し、家族と一緒に退院後の生活についての情報交換を行っている	○	今後も病院との情報交換を続けていきたい
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、家族と入所当初より幾度となく話し合いを行っている	○	重度化する前から、本人・家族に予後のあり方を確認できる取り組みをしていきたい(アンケート方式などで)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所側での「出来ること・出来ないこと」は家族に伝えている。かかりつけ医からは起こりうる変化については伺っている	○	終末期に向け、本人の状態の変化に備え、家族との話し合いや、主治医への報告などを密にしていきたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによって、本人の負担が大きくなるように情報交換を行っているが、書面のみでの対応で終わってしまうケースもある。	○	「何か」の時にはいつでもお互いに連絡しあえる関係を構築したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活においては、プライバシーを確保した言葉掛け、対応をしている。排泄などの際は本人が恥ずかしい思いをしないように対応している	○ 個人情報取り扱いについての取り決めをする
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の表現方法を理解・察知し支援している	○ 表現しようとしている力を引き出すような支援を統一して行いたい
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	取り決めはなく、柔軟な対応は出来ている	○ 表現しようとしている力を引き出す為の声掛けを、日常の習慣にしていきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は行ける人は家族と一緒にお店に行っている	○ 外出が困難な型に対しての支援を考えていきたい(ボランティア活用など)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立なども、材料を提示して、何にしたら良いかを一緒に考えたり、また、畑にて自ら収穫したものを食べてもらうことにより楽しんでいただいている。漬物作り・おにぎり作り・野菜の下処理・食器拭きなど、出来る事を行っている。	○ 今後も継続し、一緒に楽しみながら出来る事を増やしていきたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	要望があれば提供するように心がけている。飲み物やおやつなど「甘いもの？冷たいもの？」など尋ねるようにしている	○ お酒に関しては、日常的な提供はしていないが、今後は検討していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表により、排泄パターンを掴み、失禁等により不快な思いをしてしまうことのないように介助や声掛けを行っている		今後も継続していきたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、毎日夜、眠る前の入浴を実施。本人の体調や気分に応じて、休むなど柔軟な対応をしている	○	本人の体調や要望があれば日中の入浴も実施できる体制を作っていきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝の時間や就寝時間など決まり事は作らず、本人の状態や意向にて休息している		今後も継続していきたい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・草取り・洗濯物たたみ・書道・折り紙・歌などそれぞれの力や趣味などに合わせて行ってもらっている	○	やりがいや喜びがより大きなものになるよう、スタッフの声掛けや対応を徹底したい(一緒に楽しむ・教えていただく・感謝するなど)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持っている方、こちらで預かり管理している方、家族がすべて管理している方など、一人一人の希望や力に即した支援をしている	○	買い物をしたいときの同行ボランティアの活用を考えている
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブなど、希望に添えるように支援している。歩行困難な方は、車椅子で庭や畑へ出かけるように支援している	○	希望を引き出しづらい方に関しても、体調を考慮しながら戸外へ出かけられる支援をしていきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事(花見など)の際には、家族の参加もお願いし出かけている	○	日帰りの温泉旅行(家族も)に取り組みたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用でき、家族からの電話には出ている。手紙も、写真などを添えてやり取りしている。届き物のお礼などは電話している	○	すべての方が出来ているわけではないので、家族にも電話の必要性を伝えていきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問でき、丁寧な対応を心がけている		今後も継続していきたい
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、法令上の具体的な行為全てを理解しているかは不明	○	勉強会などを開き、正しい理解を深めていきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。一人で外へ出る可能性のある方は常に所在を確認している	○	外に出ても危険がない庭作り実現に向けて、内外への働きかけをしていきたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ(昼夜各2名を配置)はお互いに「今、○○さんは何をしている」かを確認しあい、安全に配慮している		今後も継続していきたい
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われるものは、それぞれの保管や管理をしている	○	個人に対しての個別の危険物の見極めを行っていく
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ一人一人が、利用者それぞれの状態や事故の危険性の有無を把握、理解し、事故が起きないような支援を行っている	○	もし事故が起こってしまった時の対応を学びたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基本的な応急手当・初期対応は行えるが、定期的な訓練は行えていない	○	事故発生時にパニックになってしまわないか、不安に思っているスタッフがいると思うため、定期的な訓練などを行っていきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て火災時の避難訓練を実施したことはあるが、定期的になっていない	○	定期的な避難訓練の実施。非常用食料、備品などを準備する
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランにのせて、家族の了解を得ている		今後も継続していきたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・夕のバイタルチェックで体調の変化にすばやく対応し、管理者への報告や引継ぎの際に伝達している		今後も継続していきたい
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋と照らし合わせ、間違いなく服用できるように、利用者ごとに薬箱を用意している	○	薬の目的や副作用に関して理解・確認をすべてのスタッフが出来ているとは限らないので、徹底したい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩や飲食物により便秘を軽減できるような支援を心がけているが、便秘薬に頼っている方もいる	○	医師の指導を仰いでいきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	洗面所に行き、歯磨きやうがい出来るように支援している。義歯洗浄を毎日行っている。	○	口腔内の清潔保持が肺炎予防になるということもスタッフ全員で学んでいきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別にチェック表に記入している。月1回の体重測定を実施している	○	栄養士の助言を定期的に受けていきたい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成、また、県などからの情報なども活用し感染症の予防に向けて実行している。	○	発生した時の対応を学んでいきたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾などの調理器具の消毒を徹底している。食器も、水滴の残ることのないように拭いている。	○	今後も継続していきたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはスロープ・手すりを設置している。また、季節の花を飾ったりと、明るい雰囲気づくりを心がけている		今後も継続していきたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作成した物で季節の飾り付けをしている。季節の花を飾っている。鳥の声が聞こえるよう配慮している	○	時々テレビがつけたままになっているので注意したい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間ながら、廊下にソファを置いたり、日当たりのよい利用者の居室に2人がけ用のソファを置き、利用者同士が過ごす時間を大切にしている		今後も継続していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には新しいものを準備するのではなく、なるべく馴染みの物を持ってきてもらうようにしている。ベッドと入り口の方角など、今までと同じように設置したりしている。	○	昔ながらの古いたんすなどの持込は、「重くて無理」などの話が家族から出ることもあった。自宅に訪問するなどして、何か、本人にとって居心地が良くなるものを一緒に見つけられたらと考えている
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	必要に応じて、随時換気や温度・湿度調整を行っている。スタッフの感覚だけに頼らず、利用者にも尋ねるようにしている。	○	各居室に温度(湿度)計を設置したい
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の構造上不備な点もあるが、安全を確保しながら自立できるよう支援している	○	築80年の建物をいかにしながら不備な点を整備している
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札やトイレの表示など、分かりやすいように明示している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を作り、自ら収穫し、食卓に並べている。季節ごとにさまざまな花々が咲く。小学校から子供たちの声が聞こえてくる		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○スタッフの異動が少ない ○築80年の民家を利用して家庭的な雰囲気がある ○家族が気軽に訪ねて来てくれる ○近くに幼稚園・小学校があり歩いて5分の所に商店街がある